

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-285329

(43) 公開日 平成9年(1997)11月4日

(51) Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 C	9/00		A 4 5 C	9/00 Z
	5/14			5/14 A
	13/38			13/38
A 4 5 F	3/04		A 4 5 F	3/04
	4/02			4/02
審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 7 頁)				

(21) 出願番号 特願平8-122295

(22) 出願日 平成8年(1996)4月19日

(71) 出願人 593220801

株式会社キャメル

東京都台東区浅草一丁目6番2号

(72) 発明者 樋口 孝四郎

東京都台東区浅草1丁目6番2号株式会社
キャメル内

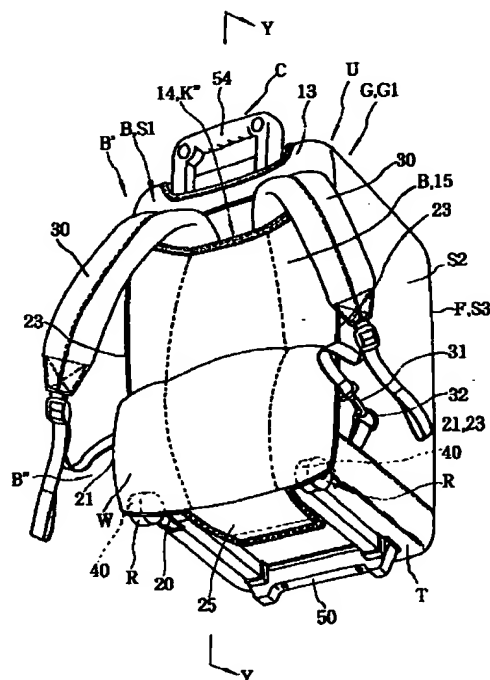
(74) 代理人 弁理士 桑原 稔 (外1名)

(54) 【発明の名称】 バッグ

(57) 【要約】

【課題】 走行ローラと背負いバンドとを備えるバッグにあって、背負いバンドを用いた背負い時にバッグを背負う者の衣服の汚損等を生じないようにする。

【解決手段】 袋体Fにおける底面Tに走行ローラRを備え、走行ローラRを用いて運ぶことができるバッグGである。背負い面Bの少なくとも一部を覆うカバーWと、背負い面B側の上部方で一端が止着してある一対の背負いバンド30、30とを備えており、背負いバンド30が、背負い面Bに備えられる収納部14又は背負い面Bの上部方を覆った添装状態において留め付けられるカバーWと背負い面Bとの間に収め入れられる構成としてある。カバーWは、上部方を覆った添装状態での留め付けを解いて下部方に下げ降ろされた状態で、少なくともバッグGの背負い時に背面又は腰部に接する側の走行ローラRの面40を覆うように、袋体Fの底面T側に着脱可能に留め付け可能なものとされている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 開閉部材により開閉可能とされる開口を備えた袋体における背負い面として用いられる一側面と底面とが接し合う箇所に走行ローラを備え、この走行ローラを用いて運ぶことができるバッグであって、当該バッグが、前記背負い面の少なくとも一部を覆うカバーと、当該背負い面側の上部方で一端が止着してある背負いバンドとを備えており、

この背負いバンドが、前記背負い面に備えられる収納部又は当該背負い面の上部方を覆った添装状態において留め付けられる前記カバーと当該背負い面との間に収め入れられる構成としてあると共に、

前記カバーが、前記上部方を覆った添装状態での留め付けを解いて下部方に下げ降ろされた状態で、少なくとも前記バッグの背負い時に背面又は腰部に接する側の前記走行ローラの面を覆うように、前記袋体の底面側に着脱可能に留め付けられることを特徴とするバッグ。

【請求項2】 カバーがクッション材を備えて構成してあることを特徴とする請求項1記載のバッグ。

【請求項3】 カバーが、当該カバーが下部方に下げ降ろされた際に、走行ローラを包み込み状に覆う覆い部を備えていることを特徴とする請求項1又は請求項2記載のバッグ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、走行ローラと背負いバンドとを備え、この走行ローラを用いて運ぶことができると共に、背負いバンドを用いて背負って運ぶこともできるバッグの改良に関する。

【0002】

【従来の技術】バッグの底側に走行ローラを備えたと共に当該バッグの一側面に背負いバンドを備え、バッグの上側に設けられた引き手、引き紐などを引っ張ることにより当該走行ローラを用いてバッグを移動させながら運ぶことができると共に、前記一側面を背負い面として前記背負いバンドを用いて背負って運ぶこともできるバッグが用いられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかるに、かかる従来のバッグにあつては、通例、前記背負い面と底面とが接し合う箇所に走行ローラが設けられているため、前記背負いバンドを用いてかかるバッグを背負った際に、背面あるいは腰部に当該走行ローラが当たって当該バッグを背負う者の衣服などを汚してしまうことがあった。

【0004】また、前記走行ローラが前記背面あるいは腰部に当たったり、押し付けられたりするため、背負い感が必ずしも良いものとは言えず、場合によっては、当該走行ローラが当たる前記背面などの身体の箇所に痛みを感じさせる不都合があった。

【0005】そこでこの発明は、かかる従来の技術の不

都合を解消することを目的とする。

【0006】また、走行ローラと背負いバンドとを備えるバッグにあつて、当該背負いバンドを用いた背負い時にバッグを背負う者の衣服などを汚すことがなく、また、当該走行ローラが背面などに直接当たることによる背負い感の悪さなどを生じさせないようにすることを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】前記目的を解決するために、請求項1記載の発明にあつては、バッグGを、開閉部材により開閉可能とされる開口を備えた袋体Fにおける背負い面Bとして用いられる一側面S1と底面Tとが接し合う箇所に走行ローラRを備え、この走行ローラRを用いて運ぶことができるバッグGであつて、当該バッグGが、前記背負い面Bの少なくとも一部を覆うカバーWと、当該背負い面B側の上部方で一端が止着してある一対の背負いバンド30、30とを備えており、この背負いバンド30が、前記背負い面Bに備えられる収納部14又は当該背負い面Bの上部方を覆った添装状態において留め付けられる前記カバーWと当該背負い面Bとの間に収め入れられる構成としてあると共に、前記カバーWが、前記上部方を覆った添装状態での留め付けを解いて下部方に下げ降ろされた状態で、少なくとも前記バッグGの背負い時に背面又は腰部に接する側の前記走行ローラRの面40を覆うように、前記袋体Fの底面T側に着脱可能に留め付けられる構成のものとした。

【0008】また、請求項2記載の発明にあつては、請求項1記載のバッグGにおけるカバーWがクッション材Mを備えて構成してあるものとした。

【0009】また、請求項3記載の発明にあつては、請求項1又は請求項2記載のバッグGにおけるカバーWが、当該カバーWが下部方に下げ降ろされた際に、走行ローラRを包み込み状に覆う覆い部を備えている構成のものとした。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、図1ないし図8に基づいて、この発明の典型的な実施の形態について説明する。

【0011】この実施の形態にかかるバッグGは、開閉部材により開閉可能とされる開口を備えた袋体Fにおける背負い面Bとして用いられる一側面S1と底面Tとが接し合う箇所に走行ローラRを備え、この走行ローラRを用いて運ぶことができるバッグGであつて、当該バッグGが、前記背負い面Bの少なくとも一部を覆うカバーWと、当該背負い面B側の上部方で一端が止着してある背負いバンド30とを備えており、この背負いバンド30が、前記背負い面Bに備えられる収納部14又は当該背負い面Bの上部方B'を覆った添装状態において留め付けられる前記カバーWと当該背負い面Bとの間に収め入れられる構成を備えている。

【0012】したがって、この実施の形態にかかるバ

グGにあっては、前記走行ローラRを用いて運ぶことができると共に、前記背負いバンド30を前記背負い面Bに備えられる収納部14又は当該背負い面Bの上部方B'を覆った添装状態において留め付けられる前記カバーWと当該背負い面Bとの間から引き出して、この背負いバンド30を用いて前記背負い面Bを背面ないしは腰部に接しさせた背負い状態で持ち運ぶことができる。

【0013】また、この実施の形態にかかるバッグGは、前記カバーWが、前記上部方B'を覆った添装状態での留め付けを解いて下部方B"に下げ降ろされた状態で、少なくとも前記バッグGの背負い時に背面又は腰部に接する側の前記走行ローラRの面40を覆うように、前記袋体Fの底面T側に着脱可能に留め付けられる構成を備えている。

【0014】したがって、この実施の形態にかかるバッグGにあっては、前記カバーWを、当該カバーWが前記上部方B'を覆った添装状態での留め付けを解いて下部方B"に下げ降ろすと共に、前記袋体Fの底面T側に着脱可能に留め付けることにより、このカバーWにより少なくとも前記バッグGの背負い時に背面又は腰部に接する側の前記走行ローラRの面40を覆うことができ、当該背面などに走行ローラRが直接接しないようにすることができる。

【0015】この結果、この実施の形態にかかるバッグGによれば、前記背負いバンド30を用いた背負い時にバッグGを背負う者の衣服などを汚すことがなく、また、前記走行ローラRが背面などに直接当たることによる負担した背負い感の悪さなどを軽減させることができる。

【0016】また、前記実施の形態にかかるバッグGにあって、前記カバーWがクッション材Mを備えて構成してあるものとするのが、この発明の最良の実施の形態の一つとされる。

【0017】かかる構成によれば、前記カバーWに備えられたクッション材Mにより、前記走行ローラRの背面などへの押し当て感をバッグGを背負う者に感じさせることがなく、当該バッグGを快適に背負うことができる。

【0018】また、前記各実施の形態にかかるバッグGにあって、前記カバーWが、当該カバーWが下部方B"に下げ降ろされた際に走行ローラRを包み込み状に覆う覆い部22を備える構成とすることが、この発明の最良の実施の形態のさらに他の一つとされる。

【0019】かかる構成によれば、前記走行ローラRは、前記背面又は腰部に接する側にある走行ローラRの面40のみならず、これ以外の面、特に当該走行ローラRの軸方向に直交する側にある側面41においても確実に覆われることから、当該走行ローラRがバッグGを背負う者の衣服などに接して当該衣服などを汚す事態を一層確実に防止することができる。

【0020】次いで、図1ないし図5に示されるこの発

明のより具体的な実施の形態の一つについて、詳細に説明する。

【0021】なお、ここで図1は、カバーWを背負い面Bの上部方B'を覆った添装状態としたこの実施の形態にかかるバッグG1を斜視の状態として示しており、また、図2は、当該カバーWによる前記背負い面Bの上部方B'の添装状態を解いて、当該カバーWを下部方B"にやや下げ降ろすと共に、背負いバンド30を引き出した状態にあるバッグG1を、斜視の状態として示しており、また、図3は、前記背負い面Bの下部方B"に下げ降ろされた前記カバーWを底面T側で留め付けた状態にあるバッグG1を、斜視の状態として示している。また、図4は、カバーWを背負い面Bの上部方B'を覆った添装状態とした前記バッグG1を縦断面の状態として示しており、さらに、図5は、前記背負い面Bの下部方B"に下げ降ろされた前記カバーWを底面T側で留め付けた状態にあるバッグG1を縦断面の状態として示している。

【0022】図1ないし図5に示されるバッグG1は、上面Uと底面Tおよび当該上面Uと底面Tよりも広く構成してある略長形状をなす四つの側面S1、S2・S2、S3を備えた袋体Fにおける一側面S1と底面Tとが接し合う箇所に一對の走行ローラR、Rを備えさせると共に、当該一側面S1に一對の背負いバンド30を設け、この一側面S1を背負い面Bとして背負うことができる構成としてある。

【0023】前記袋体Fは、当該袋体Fにおける適宜の箇所に、ファスナー、ホックなどの適宜の開閉部材により開閉可能とされる開口（図示は省略する。）を設けて、当該袋体F内に持ち運ぶべき各種の物品を随意収納でき、また、随意取り出すことができるようにして用いられる。

【0024】前記開口は、典型的には、前記上面Uから前記背負い面Bに隣り合う両側面S2、S2に互るように、あるいはまた、前記背負い面Bに対向される表面S3に形成される。また、当該背負い面Bに対向する表面S3などに適宜の収納ポケットなどを設けて用いられる。

【0025】また、この実施の形態にあっては、略形状枠状をなす下部フレーム50と、この下部フレーム50の一片を構成するフレーム構成体51の両端部から当該下部フレーム50の各片が接する仮想の面に略直交する向きに突き出す一對の管状フレーム52、52と、この一對の管状フレーム52、52における上部開口より当該一對の管状フレーム52、52内に抜き差し自在に収められる一對の引き手支持桿53、53と、この引き手支持桿53、53における前記一對の管状フレーム52、52内から突き出されている端部間に互るように組み付けられている引き手54と、前記管状フレーム52の組み付けられている前記フレーム構成体51の両端部

に、ローラ面の一部を下方に突き出し、かつ、当該フレーム構成体51の軸に回転軸を略平行とするようにそれぞれ組み付けられる一対の走行ローラR、Rを備えるカート状体Cを、前記袋体Fに組み付けることにより、当該袋体Fが前記底面Tと前記背負い面Bとが接し合う箇所に当該一対の走行ローラR、Rを備える構成としてある。

【0026】すなわち、この実施の形態にあつては、前記背負い面Bの内側に前記カート状体Cにおける前記管状フレーム52が差し入れられるバッグG1の底面T側から上面U側に抜ける隙間K'が、バッグG1の内張生地10とこの内張生地10と前記背負い面B構成生地15の内側に張り込まれる生地11との間に設けてあり、前記カート状体Cの前記管状フレーム52を、当該カート状体Cの下部フレーム50が当該バッグG1の底面Tに接し、かつ、当該管状フレーム52の前記引き手54が設けられている側がバッグG1の上面U側において当該隙間K'から突き出されるように、当該隙間K'に差し入れることにより、かかるカート状体Cにおける前記走行ローラRを前記バッグG1の背負い面Bと底面Tとが接し合う箇所に備えさせている。

【0027】なお、この実施の形態にあつては、前記バッグG1の上面Uと底面Tにそれぞれ保形板12が設けてあり、前記カート状体Cの下部フレーム50と当該底面Tに備えられた保形板12とをネジ止めすると共に、前記管状フレームの上部に設けられた取付板55と前記上面Uに備えられた保形板12とをネジ止めすることにより、当該カート状体Cと袋体Fとを組み付けている。

【0028】もっとも、前記バッグG1の底面Tに続く両側面S2、S2から底面T側に向けて伸ばすことができる一対のバンドを設けると共に、この一対のバンドの端部に雌雄をなすバックルなど両バンドを引き絞った状態で連結させることができる留付手段を設けておき、前記隙間K'に管状フレーム52を差し入れた前記カート状体Cの下部フレーム50を、連結させたかかる一対のバンドにより押え付けて、当該カート状体Cを前記袋体Fに対して取り外し可能に組み付けることができる構成としてあつても良い。

【0029】また、この実施の形態にあつては、前記背負い面Bを、当該背負い面Bの下部方B"から上部方B'に向けて覆うカバーWが備えられている。

【0030】かかるカバーWは、前記背負い面Bの上下方向略中程の位置から下側で、当該カバーWの両側縁21、21を前記背負い面Bを構成する生地15に止着されて当該背負い面Bの下部方B"を覆っていると共に、当該カバーWの上縁20およびこの上縁20に続く前記止着箇所に至るまでの両側縁21、21にこれらの縁に沿って雌雄をなすファスナー23の一方を備えており、このファスナー23の一方を、前記背負い面Bおよび前記背負い面Bの上部側において当該背負い面Bに隣り合

う両側面S2、S2間に互るように設けられた補助カバーW'に設けられた雌雄をなすファスナー23の他方に啗合させるようにスライド24を操作することにより、前記背負い面Bの上部方B'を添装状態に覆う構成としてある。

【0031】また、かかるカバーWは、前記スライド24を操作して前記雌雄をなすファスナー23の啗合を解き、前記背負い面Bの上下方向略中程に位置で折返して当該背負い面Bの下部方B"に下げ降ろすことにより、当該カバーWの前記上縁20部により、当該背負い面Bと前記底面Tとが接し合う箇所に設けられた前記一対の走行ローラR、Rの双方におけるローラ面の一部、この実施の形態にあつては、バッグG1を背負った際に背面又は腰部に接する側のローラの面40を覆う大きさに構成してある。

【0032】また、この実施の形態では、かかるカバーWにおける上縁20部に、当該カバーWにより前記背負い面Bの上部方B'を覆わせた際に当該背負い面BとカバーWとの間に挟み込めるように構成された舌片25が設けてあると共に、この舌片25の先端部と、前記カート状体Cの下部フレーム50で囲まれた底面Tとに、雌雄をなす面状ファスナー26がそれぞれ設けてあり、両面状ファスナー26を留め付けることにより、前記のように背負い面Bの下部方B"に下げ降ろされたカバーWによる前記走行ローラRの覆い状態を安定的に確保できる構成としてある。

【0033】また、この実施の形態にあつては、前記背負い面Bの上部側において、当該背負い面Bを構成する生地15の内側に位置される生地11に一対の背負いバンド30の一端が止着してあり、また、この一対の背負いバンド30の他端にはそれぞれ、前記バッグG1の当該背負い面Bに隣り合う両側面S2、S2の下部に設けられた連結環32に連結させることができるナス環31が設けてある。

【0034】そして、この実施の形態にあつては、かかる一対の背負いバンド30、30が、前記背負い面Bに備えられる収納部14、この実施の形態にあつては、当該背負い面Bを構成する生地15とこの生地15の内側にある生地11との隙間K"、または、当該背負い面Bの上部方B'を覆う添装状態において当該背負い面Bに前記ファスナー23により留め付けられた前記カバーWと当該背負い面Bとの間に、収め入れられる構成としてある。

【0035】この実施の形態にかかるバッグG1は、かような構成を備えることから、先ず、前記一対の背負いバンド30、30を前記収納部14又は前記背負い面Bの上部方B'を覆う添装状態において当該背負い面Bに前記ファスナー23により留め付けられた前記カバーWと当該背負い面Bとの間に、収め入れられた状態で、前記管状フレームから前記引き手支持桿53を適宜の長さ

引き出して適宜の位置に位置付けられた前記引き手54を把持などして当該バッグG1を引っ張ることにより、前記一對の走行ローラR、Rを用いてバッグG1を移動させながら運ぶことができる。

【0036】また、前記カバーWの前記背負い面Bの上部方B'を覆った添装状態での留め付けを解いて、下部方B"に下げ降ろすと共に、前記収納部14又は当該カバーWと背負い面Bとの間に収められていた前記一對の背負いバンド30、30を引き出し、かかる背負いバンド30に設けられた前記ナス環31をそれぞれ当該背負い面Bに隣り合う側面に設けられた前記連結環32に連結させることにより、当該一對の背負いバンド30にそれぞれ腕を通して、前記背負い面Bを背面又は腰部に接しさせた状態で、当該バッグG1を背負って運ぶことができる。

【0037】そして、このバッグG1の背負い時に、前記カバーWにより背面又は腰部に直接前記走行ローラRが触れることがないものとされる。

【0038】また、この実施の形態にあつては、前記背負い面Bの上部方B'と、前記カバーWの下部方B"にそれぞれ、クッション材Mが内装されており、当該カバーWを下部方B"に下げ降ろした状態において、バッグG1を背負う者の背面又は腰部に接する背負い面BおよびカバーWの部分全体にかかるクッション材Mが位置される構成としてある。

【0039】この結果、バッグG1の背負い感は快適なものとなれ、特に、前記走行ローラRが背面又は腰部に突き当たる感覚を当該バッグG1を背負う者に与えることがない特長を有している。

【0040】次いで、図6ないし図8に示されるこの発明のより具体的な実施の形態の他の一つについて、詳細に説明する。

【0041】なお、ここで図6は、前記背負い面Bの下部方B"に下げ降ろされた前記カバーWを底面T側で留め付け、かつ、覆い部22により走行ローラRを包み込むように覆った状態にあるバッグG2を、斜視の状態として示している。また、図7は、当該覆い部22の構成を理解し易いように、前記カバーWの上縁隅部に設けられた前記覆い部22を斜視の状態で示しており、さらに図8は、図7に示される状態から前記走行ローラRの側に折返されて、当該走行ローラRを包み込むように覆った状態にある前記覆い部22を斜視の状態として示している。

【0042】この実施の形態にかかるバッグG2は、前記図1ないし図5に示されるバッグG1におけるカバーWの構成を一部異ならせている。その余の構成については、当該図1ないし図5に示されるバッグG1と同一又は実質的に同一であるので、同一又は実質的に同一の構成部分については、この実施の形態にかかるバッグG2を示す図6ないし図8に図1ないし図5で用いた符号と

同一の符号を付してその説明を省略する。

【0043】この実施の形態にかかるバッグG2は、カバーWの上縁20両隅部に、当該カバーWの上縁20部とこの上縁20部に続く側縁21部に沿うように覆い部22を構成する生地片が止着してあり、当該カバーWが下部方B"に下げ降ろされた際に、前記走行ローラRの回転軸に直交する一側面41と、下方に向けられるローラ面42とをかかる覆い部22で覆うことができる構成としてある。

【0044】すなわち、この実施の形態にあつては、前記覆い部22は、前記カバーWにより前記背負い面Bの上部方B'を覆わせた際に当該背負い面BとカバーWとの間に挟み込めるように、前記カバーWの上縁20両隅部に設けてあると共に、当該カバーWが下部方B"に下げ降ろされた際に当該覆い部22の先端縁が当該カバーWにおける前記走行ローラRに接する側の面から突き出されるように当該覆い部22を折返すことにより、当該走行ローラRを当該カバーW共々包み込み状に覆うことができる構成としてある。

【0045】この結果、この実施の形態にかかるバッグG2によれば、当該バッグG2の背負い時に前記走行ローラRがバッグG2を背負う者の衣服などに接して当該衣服などを汚す事態を一層確実に防止することができる。

【0046】

【発明の効果】この発明にかかるバッグGは、前記カバーWが、前記上部方B'を覆った添装状態での留め付けを解いて下部方B"に下げ降ろされた状態で、少なくとも前記バッグGの背負い時に背面又は腰部に接する側の前記走行ローラRの面を覆うように、前記袋体Fの底面T側に着脱可能に留め付けられる構成を備えていることから、前記カバーWを、当該カバーWが前記上部方B'を覆った添装状態での留め付けを解いて下部方B"に下げ降ろすると共に、前記袋体Fの底面T側に着脱可能に留め付けることにより、このカバーWにより少なくとも前記バッグGの背負い時に背面又は腰部に接する側の前記走行ローラRの面40を覆うことができ、当該背面などに走行ローラRが直接接しないようにすることができる。この結果、この実施の形態にかかるバッグGによれば、前記背負いバンド30を用いた背負い時にバッグGを背負う者の衣服などを汚すことがなく、また、前記走行ローラRが背面などに直接当たることに起因した背負い感の悪さなどを軽減させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】バッグG1の斜視図

【図2】バッグG1の斜視図

【図3】バッグG1の斜視図

【図4】図1におけるX-X線断面図

【図5】図3におけるY-Y線断面図

【図6】バッグG2の斜視図

【図7】 バッグG 2の要部斜視図

【図8】 バッグG 2の要部斜視図

【符号の説明】

G バッグ

W カバー

B' 上部方

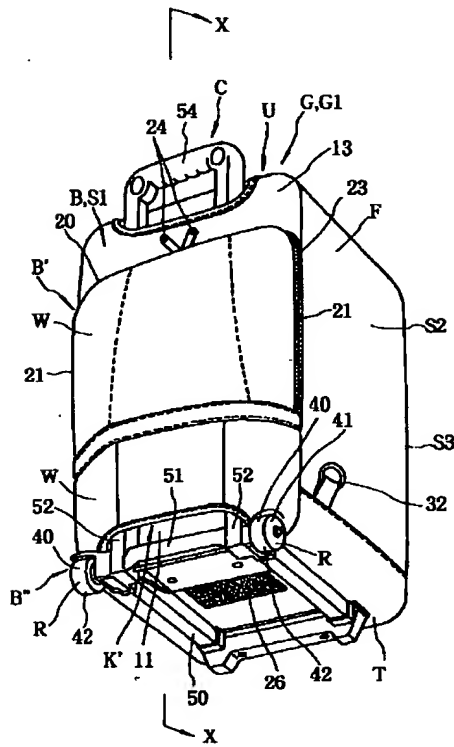
B'' 下部方

R 走行ローラ

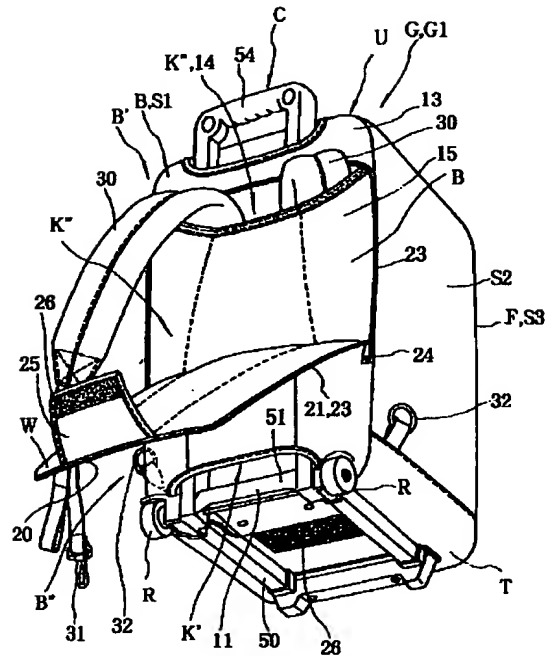
F 袋体

T 底面

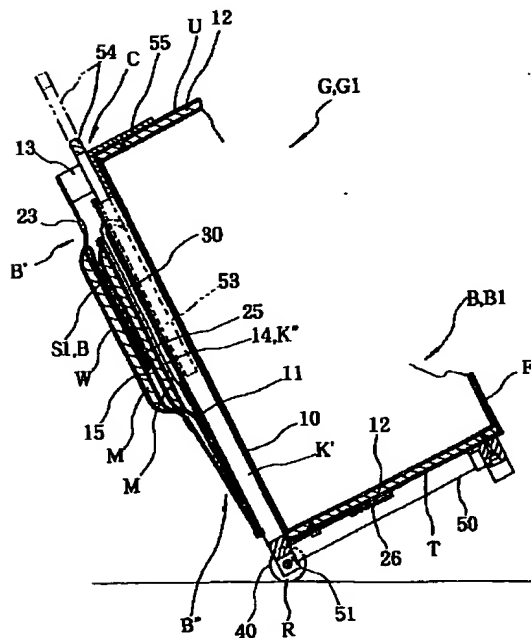
【図1】



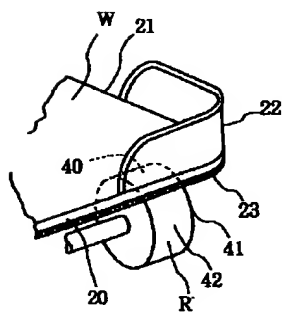
【図2】



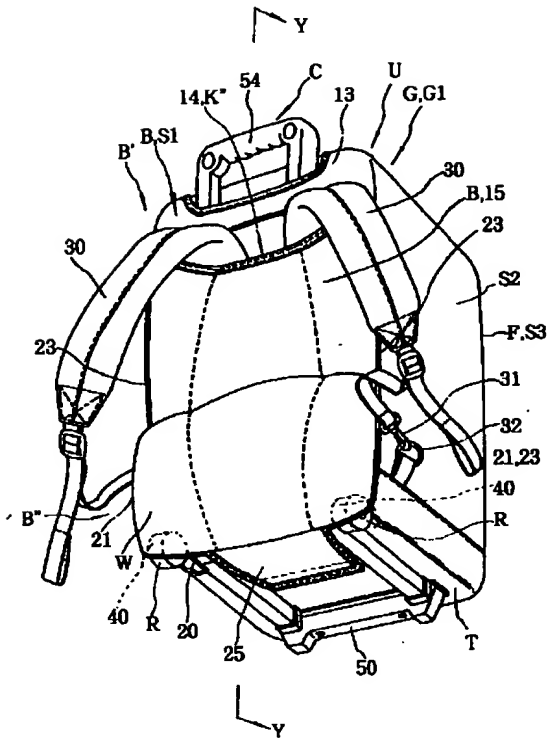
【図4】



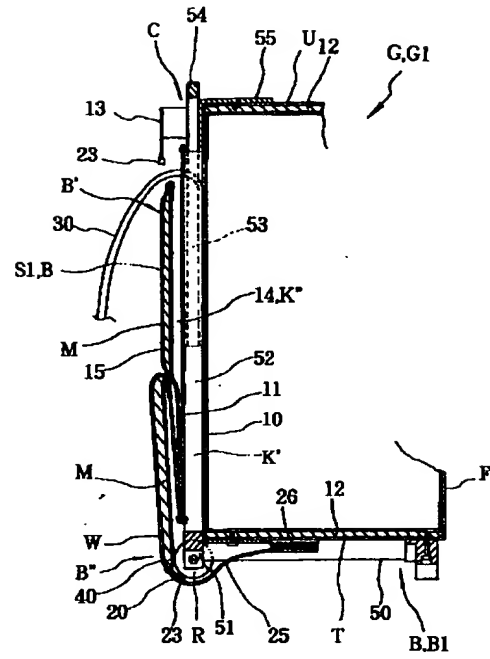
【図7】



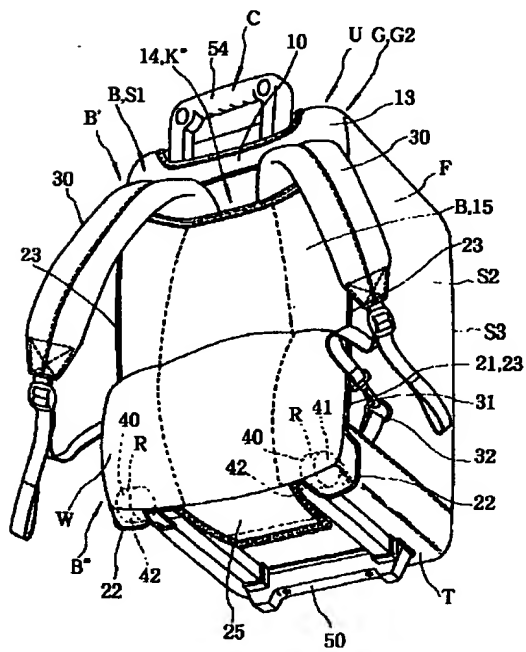
【図3】



【図5】



【図6】



【図8】

